

# 第9章

## 使えるシート集

総合教育センターでは、新学習指導要領に対応した様々な研修を実施しています。しかし、研修の機会は限られており、すべての先生方に参加いただくことはできません。一方で、新学習指導要領は、これまでにない大きな改訂です。その中で示される「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」の実現は、これからの社会を生きていく子どもに必要な資質・能力を育むために必須のものです。

そこで、第9章では各校種の研修等で使用したシートを掲載しました。「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」を実現するため、校内研修等にぜひ活用してください。

(※ 掲載したシートは、DVDに収録されています。)



### 掲載シート一覧

#### 小中学校 研修シート

**授業設計** 授業設計アイデアシート

【シート (小中-1)】

**学習評価** 振り返りシート

【シート (小中-2)】

#### 高等学校 研修シート

**授業設計** 学びのデザインシート

【シート (高-1)】

**学習評価** 授業実践振り返りシート

【シート (高-2)】

**カリマネ** 「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート1

【シート (高-3)】

**カリマネ** 「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート2

【シート (高-4)】

**カリマネ** 何から始める? 「カリキュラム・マネジメント」(高等学校編)

【シート (高-5)】

#### 特別支援学校 研修シート

**授業設計** アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計シート

【シート (特-1)】

**学習評価** アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践記録シート

【シート (特-2)】

**カリマネ** ワークシート1 資質・能力を育てるためのカリキュラム・マネジメント

【シート (特-3)】

**カリマネ** ワークシート2 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

**学習評価**

【シート (特-4)】

**カリマネ** ワークシート3 教科横断的に取り組む資質・能力の育成

【シート (特-5)】

## 第9章 使えるシート集

### 1 小中学校 研修シート

#### (1) 授業設計アイデアシート【シート（小中－1）】

授業設計

##### ア ねらいと特徴

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、リーフレットの授業設計診断の4項目に沿って授業を設計するためのシートです。

このシートを活用することで単元・本時における子どもの姿を具体的にイメージすることができます。4項目が関連し合っているので、項目間を行き来しながら修正することができます。指導案の様式では離れてしまう、主発問・学習課題と学習の成果が横に並んでいるので、それらのつながりが見やすくなっているのが特徴です。

##### イ 使用方法

- ・ 授業設計診断の4項目に沿って、「授業設計アイデアシート」を用いて授業をデザインします。
- ・ 日々の授業において、「主体的・対話的で深い学び」の視点をもった授業を設計するための思考ツールとして気軽に使用できます。
- ・ 指導案の検討、授業終了後の事後研修でも使えますが、指導案を作成する前に活用することをお勧めします。
- ・ 単元（または本時）で身に付けさせたい力を学習指導要領で確認してから記入を始めます。

##### ウ 留意点

- ・ 単元（題材）・本時の目標の欄（①）に身に付けさせたい力を具体的に書いた後は、シートのどこから書いても構いません。
- ・ 一通り記入した後、「主発問・学習課題」と「学習の成果」にずれがないか確認するなど、項目をもう一度見直すことが効果的です。

単元名 (学年・教科)	ピカソのゲルニカを鑑賞しよう (3年・美術)	
<p align="center"><b>評価規準</b></p>	<p align="center"><b>単元 (題材) ・ 本時の目標</b></p>	
<p>造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と工夫などを感じ取り、自分の考えをもって味わうことができたか。【鑑賞の能力】(ワークシート)</p>	<p>ゲルニカの造形的なよさや美しさ、描かれた背景、作者の心情や意図と工夫、美術が社会に与える影響などについて総合的に批評し合う活動を通して、それらを感じ取り、自分の意見や考えをもって味わうことができる。【鑑賞の能力】</p>	
<p align="center"><b>学習の成果</b></p>	<p align="center"><b>解決したい課題や問い</b> (主発問・学習課題)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲルニカを通して伝えようとしたピカソ作者の心情を感じ取ることができる。</li> <li>・技術的に優れていたピカソが、形を崩したり、色を使わなかったりして、想いをより強く伝えようとしたことを感じ取ることができる。</li> <li>・授業を通して西洋美術への関心を高める。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>&lt;次につながる問い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカソの他の作品はどんな意図でどんな描き方をしたのだろう。</li> <li>・ピカソ以外の画家たちは、どんな描き方をしたのだろう。</li> <li>・ピカソのこと(人物や人生)をもっと詳しく知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲルニカは何を描いているのだろうか?</li> </ul> <p align="center">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ白黒なの?    ・なぜこんな形なの?</li> </ul> <p align="center">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>なぜピカソはこんな描き方をしたのだろう</p> </div>	
<p align="center"><b>対話と思考</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ち悪い    ・不気味    ・幽霊みたい</li> </ul> <p align="center">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どうしてこんな描き方をしたのだろう。 (ピカソは技術が高いのに)</li> </ul> <p align="center">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカソの他の作品と比較してみよう。</li> <li>・色のついたゲルニカと比較してみよう。</li> <li>・何を描いたのか知りたい。</li> <li>・ピカソはどんな人物だったのか知りたい。</li> </ul> <p align="center">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな気持で描いたのか。</li> <li>・どんなメッセージを込めたのだろう。</li> </ul> <p align="center">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争や弾圧への怒りを表した。</li> <li>・普通に描くより形を崩してインパクトを与えたかった。</li> <li>・暗さや悲惨さを表すために色を無くした。</li> </ul>	<p align="center"><b>考えるための材料</b></p> <p>ゲルニカの実物大の画像(映写) ゲルニカのコピー(グループ1つ) ゲルニカの習作(デッサンやスケッチ)</p> <p align="center">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピカソの少年時代の作品</li> <li>・ピカソの各時代の作品</li> <li>・ピカソの人生・経歴</li> <li>・ピカソの時代の世界の情勢</li> <li>・爆撃されたゲルニカの街の写真</li> </ul> <p align="center">↓</p> <p>ピカソが書き(言い)残した言葉 ゲルニカにまつわるピカソの言葉</p>	

1

## (2) 振り返りシート【シート（小中－2）】

### 学習評価

#### ア ねらいと特徴

単元（題材）や1時間の授業の前後で、子どもの考えの量や質がどのように変化したのかを視覚化するシートです。授業前後理解比較法に基づきます。

単元（本時）の目標に対する3人の子ども（任意）の思考の変化を確認することができます。

単元（本時）の終末時に子どもが書いた振り返りの記述だけでは、子どもの思考の変化を読み取ることができないことがあります。また、単元（本時）の始まりから考えが変わっていない場合や、単元（本時）の始まりには既に課題に対する答えが分かっており、もっと高度な課題を設定した方がよかったという場合もあります。子どもの振り返りの記述やあらわれを比較すること、単元（本時）の目標に沿った記述になっているかを検討することを通して、授業改善に生かすことができます。

#### イ 使用方法

- ・3人（例えば、理解度の異なる3人、同一グループに所属する3人などが考えられます）の子どもを抽出して、単元（本時）の授業の前後の子どもの考えを記述し、比較します。（①・②）
- ・単元（本時）の目標に沿った記述になっているかを確認します。
- ・単元（本時）の目標と照らすことが大切なポイントになります。このシートだけでは、授業の過程や教員の支援等が分かりません。指導案にも目を通した上で使用してください。

#### ウ 留意点

- ・単元（本時）の始まりと単元（本時）の終末での子どもの記述を比較することで、思考の深まりが捉えやすくなります。
- ・このシート単体では学びの過程を見る機能を有していないので、子どもの学びの深まりを評価するには、他の方法との併用が必要な場合もあります。振り返りシートの効果的な活用方法・活用場面については、今後も小中学校支援課で研究を進めます。

振り返りシート

○単元（題材）や授業内の前後で子どもの考えの量・質がどのように変化したかを視覚化します。 ※選択する3人は任意。

目標（単元・本時） 公民館長が話す公民館の現状や、民生委員が話す地域の高齢化、子育て支援事業者の方が話す子育て支援の必要性などを聞くことで、今のB公民館に「ふれあいホール」をつくるべきかを根拠をもって考えようとしている。【思考・判断・表現】		課題（単元・本時） B公民館にふれあいホールをつくるべきか。	
Aさん		Bさん	
記述なし	つくったとしても来ないかもしれないし、多すぎて入れないかもしれないから。	費用ももちろんかかるけど、あとのことを考えれば子育てにも役立つし、いいのかもしれない。でも、そもそも会議室で会議できないじゃないと思うし、公民館の人にも迷惑がかかるから。	Cさん
①			
保育園とかがあるから、使わない人いると思います。だから、あまりいらさない。ここは津波が来るし、人口が少ないから、ふれあいホールを使う人も少ないし、お金をまだ他のことに使うことができるから。	ふれあいホールをつくるべきだけど、お年寄りの中には静かなのが好きな人もいて、赤ちゃんがぎらいな人や苦手な人もいて、けど、少子化が進んでいて、高齢化が進んでいるので、ふれあいホールをつけた方がいい。未来へのつながりだと思う。	子育て中の人は子どもの目が離せない。お年寄りの講座を邪魔してしまったりするかもしれない。けど、子育て中の人は同じ悩みを抱えている人と話し合えるし、子どもは元気に遊んだり、友達ができたりする。お年寄りは子どもと会えて元気になるかもしれない。何より、誰もがワクワクしてほしいと望んでいる。	
②			
単元当初の考え	単元終了時の考え		
課題提示後の考え	授業終末時の考え		

出典：



※このシートはCOREFのシートを参考に作成しています

## 2 高等学校 研修シート

### (1) 学びのデザインシート【シート（高-1）】

授業設計

#### ア ねらいと特徴

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために授業デザインの検討を行うためのシートです。

内容をリーフレットの授業設計診断の4項目に焦点化しているため、教科の専門性を問わない授業検討が可能です。他教科の教員と検討することで、学習者目線での授業検討がしやすくなります。また、代表授業を通しての校内研修などにおいて、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業設計についての資料として、リーフレットと併せて活用できます。

#### イ 使用方法

- ・「解決したい課題や問い」は、実際に生徒に提示する表現で記入します。生徒がどのように考えるか、感じるかをイメージしやすくなります。(1)
- ・「考えるための材料」は、用意する材料（資料、道具、教材など）の数に応じて列を区切って表記します。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点（見方・考え方）を働かせて考えられる材料を記入します。また、その材料を使ったときに想定される活動を記入します。(2)
- ・「対話と思考」には、設定する対話の方法（グループ形態、時間設定、留意事項など）と、想定される思考のプロセスを記入します。(3)
- ・「学習の成果」には、「解決したい課題や問い」に対する生徒のあらわれを予想して、生徒の立場で具体的に記入します。また、育成すべき資質・能力の三つの柱から評価するための視点について、①習得した知識や重要な概念の内容、各教科が目指す技能等、②思考・判断した過程や結果をどのように表現しているか、③主体的に学習に向かう姿と新たな疑問や問いが生まれている様子を記入します。(4)
- ・授業設計診断の4項目を参照しながら、よりよいデザインになるよう自身で見直したり、他の教員と協議したりするなどして、授業改善を行います。

#### ウ 留意点

- ・このシートは1時間の授業デザインに限らず、単元などの学習のまとまりに対して作成することもできます。
- ・他の教員の「学びのデザインシート」を検討するときは、学習者目線になって、「その問いを聞いたとき、どう感じるか」など率直な意見を伝えます。
- ・「学習の成果」(4)に生徒のあらわれを具体的に記すことで、それぞれの観点の目標が明確になり、指導と評価の一体化につながります。

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想 【工業／ハードウェア技術】

1. 対象 電子科3年a組、b組 (計15名)  
真面目な生徒が多く授業に対する姿勢は前向きであるが、コンピュータに強く興味を持つ一部の生徒を除き、発言や質問を積極的にする生徒は少ない。大半が就職希望者である。
2. 単元名 「補助記憶装置」 (全4時間)
3. 単元目標
  - ・大量の情報を記録・保存するための補助記憶装置について、記憶方式、構造、性能などを学び、それぞれの特徴を踏まえた適切な使い分けを考える。
4. 本時の目標
  - ・ハードディスク装置(HDD)と、半導体ディスク装置(SSD)の特徴を理解する。(知識・理解)
  - ・状況によって答えが異なる、曖昧さを含む問いに対して、現実想定される状況を踏まえて適当な条件を設定し、それに基づいて論理的な判断ができるようになる。(思考・判断・表現)
  - ・複数の資料に基づいた異なる観点からの考えを対話を通して比較・統合し、自己の考えが変容したり論拠が強くなったりする経験を通して、多様な考えを受け入れつつ、自己の考えを論理的に説明することができるようになる。(思考・判断・表現)
  - ・コンピュータの記憶装置に興味を持ち、実際の判断に生かそうとする。(関心・意欲・態度)

### 5. 授業展開

**1 解決したい課題や問い**

あなたは、仕事用のノートパソコンを新しく購入することになりました。ある機種のカタログを見ると、「① 2TBのHDDを搭載したもの」、「② 500GBのSSDを搭載したもの」があり、どちらも価格は同じでした。上記以外の仕様が同じだとしたら、どちらを購入しますか。あなたの答とその理由を、根拠に基づいて説明してください。

2 考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C
「フラッシュメモリ(flash memory)」 SSDやUSBメモリなどに広く用いられているNAND型フラッシュメモリについて、構造、動作原理、書換え可能回数、データ保持時間などについて説明した資料。	「SSD(solid state drive)」 SSDの構造と長所(高速、衝撃に強い、省電力)に加え、ハードディスク装置(HDD)にはない機能(ウェアレベリング、エラー補正、トリム機能)について説明した資料。	「データの復元」 ディスク装置におけるファイル管理のしくみと、データ復元の可能性の観点からHDDとSSDの違いを説明した資料。
想定される活動 SSDやUSBメモリに書き換え可能回数や寿命があるのはなぜか、その構造や動作原理からくる制約を理解するとともに、どのようにしてそれを克服するのか疑問を持つ。	想定される活動 SSDの長所に加え、ウェアレベリング、エラー補正、トリム機能といったSSD独自のしくみを理解するとともに、SSDの本質的な短所について考察する。	想定される活動 ディスクシステムにおけるファイル管理の方法を理解するとともに、データの復元という観点では、SSDよりもHDDの方が安全性が高いことに気付く。

**3 対話と思考 (対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)**

① 進行方法の説明、班分け(3名ずつ)の説明、ワークシートの配布を行う。	[ 5分]
② 学習前の自分の考えをワークシートへ記入する。	[ 3分]
③ 資料A、B、Cをそれぞれ5名ずつに配布し、内容を各自で読み込む。	[ 3分]
④ 資料ごとに5人のグループを作り、意見交換を通して自分の考えをまとめる。	[ 10分] エキスパート活動
⑤ 3名ずつの班に戻り、班の中での討論を通して見解をまとめる。	[ 15分] ジグソー活動
⑥ 討論の過程や見解を班ごとに発表しあうことで、他者の考えに触れる。	[ 7分] クロストーク
⑦ 座席を元に戻し、学習後の自分の考えと感想をワークシートへ記入する。	[ 7分]

**4 学習の成果 (予想される生徒のあらわれ)**

HDDを選ぶ生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSDには寿命があるから、仕事の重要なデータの保存には向かない。</li> <li>・HDDなら故障や誤消去でデータが読み出せなくなっても、データを復元できる可能性がある。</li> <li>・現在のファイルシステムはHDDを想定したものであり、動作原理の異なるSSDには向いていない。</li> </ul>
SSDを選ぶ生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコンは持ち運ぶことが考えられるから、軽量で衝撃に強く、省電力であるSSDがよい。</li> <li>・HDDにも寿命はあるし、仕事用なら数年ごとに買い替えればよいから、SSDでよい。</li> </ul>
条件により異なると答える生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事用といってもいろいろな業務があるので、与えられた条件だけでは判断できない。</li> <li>・例えば、○○の仕事に使うなら、○○を重視して、○○を選択する。</li> </ul>

**育成すべき資質・能力の三つの柱から上記のあらわれを評価するための視点**

育成すべき資質・能力の三つの柱	① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HDDとSSDの特徴(長所、短所)を理解している。</li> <li>・それらの特徴が何に起因するものか理解している。</li> </ul>
	② 思考力・判断力・表現力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの長所(短所)だけにとらわれず、情報を総合し、客観的に比較検討することができる。</li> <li>・条件によって結論が変わることに気付き、自分なりに条件を設定しうえて結論を導くことができる。</li> <li>・討論や発表の場において、自分の考えをわかりやすく説明することができる。</li> </ul>
	③ 主体性・学びに向かう力・協働性など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の資料(知識)に不足している情報を積極的に得ようとする。</li> <li>・周囲からの質問に対して真摯に答えたり、理解できていない人に説明したりしている。</li> <li>・他人の意見に耳を傾け、それを尊重しながら自分の意志で判断しようとしている。</li> </ul>

平成 28 年度 研修成果物 (授業実践) より

### ア ねらいと特徴

授業後に、授業デザインを振り返り、検討を行うためのシートです。授業前後理解比較法に基づきます。

授業後の生徒のあらわれから「主体的・対話的で深い学び」が実現できたかを検証し、授業改善を図ります。リーフレットの授業設計診断の4項目に沿って検討することで、振り返るポイントが焦点化され、「学びのデザインシート」と同様、教科の専門性を問わない授業検討が可能になります。

### イ 使用方法

- ・授業前と授業後の学習課題に対する考えを、生徒に記録させておきます。
- ・3人（例えば、理解度の異なる3人、同一グループに所属する3人などが考えられます）の生徒を抽出して授業前後の考え（学習課題に対する回答）をシートに記入し、授業前に教員が想定した生徒のあらわれと比較しながら、授業を振り返ります。（①）
- ・生徒のあらわれから見てきた授業の成果や課題、改善案について、授業設計診断の4項目ごとに記入し、授業設計を振り返ります。（②）

### ウ 留意点

- ・校内研修等、教科を越えて多くの先生方で代表授業について検討を行うことで、多様な視点からの議論をすることができます。
- ・「学びのデザインシート」を併せて用いることで、想定した生徒のあらわれと比較しながら、「なぜできたのか」「なぜできなかったのか」を振り返ることができ、授業改善が進めやすくなります。

「学びのデザインシート」、「授業実践振り返りシート」については、総合教育センターのWebサイトから記入例、授業実践例がダウンロードできます。

[http://www.center.shizuoka-c.ed.jp/index.php?page\\_id=226](http://www.center.shizuoka-c.ed.jp/index.php?page_id=226)





## 授業実践振り返りシート(授業前後)

授業開始直後と授業終了時の学習課題に対する考え(あらわれ)を比較・分析することで、生徒の学習状況を把握し、授業設計診断4項目の視点に立って授業設計を見直す。

1

	授業開始直後の学習課題に対する考え	授業終了時の学習課題に対する考え
Aさん	<b>【HDD】</b> ・自宅のパソコンのHDDの容量が少ないので、2TBくらいは欲しいと思っていたから。	<b>【SSD】</b> ・仕事で使うのであれば、持ち運びも考えてSSDの方が良いと思った。価格が高く寿命が短いという短所もあるが、仕事には高速な方が良いと思う。
Bさん	<b>【HDD】</b> ・パソコンをどのように使用するかによって異なるが、容量がたくさんあった方がよいと思うから。	<b>【SSD】</b> ・SSDは、衝撃に強い、省電力、エラー訂正など、HDDにない利点がたくさんあることを知った。 ・仕事の内容にもよるが、2TBも不要だと思うし、高速なSSDの方が仕事の能率も上がると思う。
Cさん	<b>【SSD】</b> ・読み書きが速い方がよいと思ったから。 ・HDDは外付けのものが安価で手に入るから。 ・クラウドを利用すれば、SSDの容量不足を補えると思う。	<b>【SSD】</b> ・省電力や携帯性など、自分の班では話題にならなかったSSDの利点を、他の班の発表で再確認することができた。 ・私の考えや班の人と話し合っ出てきたSSDの利点を上回るHDDの利点がなかったため。

2

授業設計の振り返り	
<b>解決したい課題や問い</b>	・身近に起こりうる状況を具体的に設定したことで、関心を持って取り組んでくれた。 ・多様な考えを引き出すことを狙って、判断を惑わせるための情報(仕事用…耐久性や信頼性を重視、ノートパソコン…持ち運びの可能性を考慮)も入れてみたが、逆に思考の範囲を制限してしまった可能性がある。
<b>考えるための材料</b>	・資料は「HDD」、「SSD」、「データの復元」の3種類としたかったが、授業進捗の関係(HDDは既習)で実現できなかった。早めに単元を選定して準備することが大切である。 ・専門用語をどこまで掘り下げて説明するか、検討を要する。 ・技術の進歩は速いため、常に最新の情報をチェックしておく必要がある。
<b>対話と思考</b>	・「衝撃に強い、省電力」という観点でSSDを選ぶ傾向が強く、「データの復元性」という観点での対話や考察は少なかった。これは「ノートパソコン」という条件が具体的にイメージしやすいのに対して、「仕事用」という条件が漠然としており、イメージしにくいことが原因と考えられる。課題の条件設定について見直しが必要である。 ・対話は活発に行われていたが、パソコンに詳しい生徒がいる班では、その生徒の意見に流される傾向が見られた。
<b>学習の成果</b>	・「SSDについて理解が深まった」という感想は多かったが、表面的な長所・短所だけでなく、構造や動作原理を踏まえたうえで理解できているか、という点で課題が残る。 ・SSDとHDDを組み合わせたハイブリッドドライブの存在を知っている生徒もおり、既習の「キャッシュメモリ」と関連づけて考えさせる機会にもなった。

出典：    
 大学院教育支援コンソーシアム推進機構

平成28年度 研修成果物(授業実践)より

※このシートはCoREFのシートを参考に作成しています

### (3) 「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート1

【シート(高-3)】

カリマネ

#### ア ねらいと特徴

目指す学校像(学校教育目標)から、育成すべき資質・能力への意識を高め、教科指導について見直すことにより、授業を中心に校内の様々な営みがつながり、そのつながりが見えるようになるためのシートです。

教科横断的な視点をもつことを促し、カリキュラム・マネジメントにつなげることができます。教科横断という場合、「学習内容」や「学び方」などでつなぐことも考えられますが、このシートでは、「資質・能力 = 育てたい力」でつなげていきます。

#### イ 使用方法

- ・一番上に、各学校の「目指す学校像(学校教育目標)」を記入します。(1)
- ・教員それぞれが各教科の学習場面で、どのような資質・能力が育成できるのかを三つの柱で抽出、記入します。(2)
- ・総合的な学習の時間、特別活動、ICT活用、地域の人的・物的資源などとのつながりについても考えられるものを記入します。(3)
- ・記入が終わったところで、目指す学校像(学校教育目標)を軸にして改めて全体を眺め、横断的かつ俯瞰的につなげていく視点を全体で共有します。

#### ウ 留意点

- ・校内研修で実施する場合は、学年部単位など異なる教科のメンバーでのグループ編成をお勧めします。
- ・このシートを用いて全体を俯瞰できたら、これを踏まえて、教科ごとのまとまりで、教科で育成すべき資質・能力についてさらに深く協議したり、入学から卒業までの段階を追って、年間指導計画の見直しを図ったりすることなどが実施できると、さらにカリキュラム・マネジメントが進みます。

# 「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート 1

1

<b>目指す学校像</b> (学校教育目標)	校訓「忍」と文武両道の精神のもとに、高い志と優れた知性、健やかな心身を育み、将来の国家・社会を担うリーダーとして人類の発展に貢献し、国際社会で活躍する人材を育成する。
---------------------------	---



2

学校で育成すべき 資質・能力		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・学びに向かう力 協働性・人間性など
各教科等の学びや、様々な教育活動をつなげる	各教科	国語	国語を適切に表現し理解する能力 伝え合う力	自ら言語感覚を磨き言語文化に対する関心を高めようとする。
	地理歴史 (世界史)	世界の歴史の大きな枠組みと展開についての知識 資料から歴史的事象を読み取る技能	文化の多様性・複合性を広い視野から考察する力 現代世界の特質を広い視野から考察する力	歴史的事象やその解釈のされ方に疑問を持つ。 他者の意見を取り入れ自分の意見を昇華させていく。
	数学	数学における基本的な概念、原理・法則などの体系的な理解 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能	事象を数学的に考察し表現する力 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりする力	数学の論理や体系に関心を持つ 数学の論理や体系、数学の良さを事象の考察に積極的に活用する。 数学的論拠に基づいて判断する。
	理科 (生物)	生物の生態や現象について基本的な概念や原理・法則を理解する知識 観察実験を行い、結果を的確に整理し科学的に探究する技能	生物の生態や現象の中に問題を見出し探究する力 事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現する力	生物の生態や現象に関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 自分の考えと他者の考えを総合的にとらえ、真理を導き出そうとする姿勢
	外国語 (英語)	言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化を理解する。 外国語を聞いたり、読んだりして、話し手や書き手の考えや情報を的確に理解する。	外国語で話したり、書いたりして、自分の考えを適切に伝える。 自分と相手の考えを比較し、説得力のある論理的な文や言葉で伝える。	積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図る。 問題解決に向けて、他者と協力し物事の因果関係を理解し、新たな課題や疑問を持つ。
	保健体育 (体育)	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能 体力の高め方、課題解決の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方などの知識 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的事項の知識	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫する力 自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫する力 現代社会、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に判断し、それらを表す力	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持つ。 健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。 現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
	家庭	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指し思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、充実向上を目指して主体的に取り組む態度
総合的な学習の時間	地域の歴史や、現在の社会を取り巻く環境などの幅広い知識	国際理解、情報、環境や福祉、健康などに多面的にとらえ統合する力	自己の在り方生き方や進路について考察する力	

3

平成 28 年度 静岡県立韮山高等学校の研修成果物より

#### (4) 「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート2

【シート（高-4）】

カリマネ

##### ア ねらいと特徴

前出の【シート（高-3）】と同様、教科を横断した資質・能力の育成を促進するカリキュラム・マネジメントのためのシートです。教科の枠を越えて、一人の生徒をどう育てるかを共有することをねらっています。

目指す学校像と各教科の授業との間にある隔たりを埋めるため、「目指す学校像（育成を目指す生徒の姿）」を具体化する、「〇〇高校の生徒に育成すべき資質・能力」の欄を設けています。また、生徒一人ひとりを主語にするために、生徒モデルを想定します。その学校によく見られる生徒モデルから、育てたい生徒像に向かって足りない力を洗い出して、授業における学習活動を再検討するものです。

##### イ 使用方法

- ・表の上部に目指す学校像（育成を目指す生徒の姿）を記入します。（①）
- ・目指す学校像に照らして生徒に身に付けさせたい力について共通理解を図り、「〇〇高校の生徒に育成したい資質・能力」を具体的に記入します。（②）
- ・想定した生徒モデルから、その生徒の実態（現状では育成または発揮できていない資質・能力）を表の下部に記入します。（③）
- ・生徒が「育成したい資質・能力」を発揮するために、担当教科では授業においてどのようなアプローチができるかを考え、「この力を付けるために、このような指導・取組が考えられる」という具体的な書き方でそれぞれの教科について記入します（同じ教科が複数になっても構いません）。（④）
- ・それぞれの教科のアプローチが、目指す学校像につながっているか（縦の視点）、教科間にはどのようなつながりが見出せるか（横の視点）を協議し、横断的かつ俯瞰的につなげていく視点を全体で共有します。

##### ウ 留意点

- ・【(3)ウ再掲】校内研修で実施する場合は、学年部単位など異なる教科のメンバーでのグループ編成をお勧めします。
- ・【(3)ウ再掲】このシートを用いて全体を俯瞰できたら、これを踏まえて、教科ごとのまとまりで、教科で育成すべき資質・能力についてさらに深く協議したり、入学から卒業までの段階を追って、年間指導計画の見直しを図ったりすることなどが実施できると、さらにカリキュラム・マネジメントが進みます。
- ・授業力向上研修（平成29年12月8日開催）では、特徴の異なる3種類の目指す学校像と、それぞれに2人ずつの生徒モデルを用意しました（資料はDVDに収録）。当日は、希望により編成した目指す学校像ごとのグループで、検討する生徒モデルを1人選択して研修を進めました。校内研修で実施する場合は、所属校に応じた生徒モデルが用意されると、より臨場感が増します。（⇒ **Column 5** へ）

# 「資質・能力の育成につなげるカリキュラム・マネジメント」ワークシート2

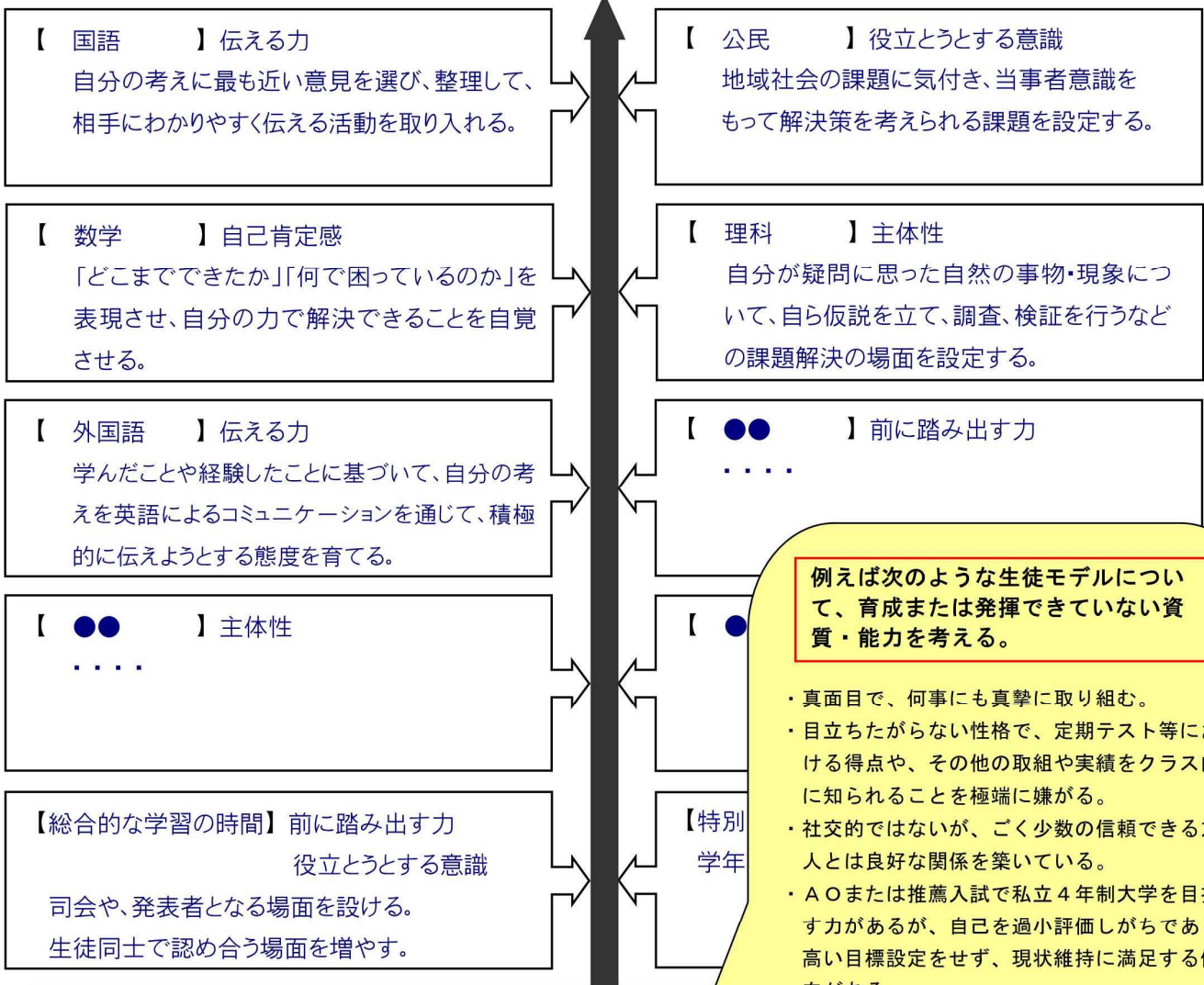
## 1 目指す学校像(育成を目指す生徒の姿)

自主・自律の精神と高い規範意識を身に付け、充実した学力と豊かな感性をもち、地域や社会で自己の能力を発揮し貢献するために必要な資質・能力を習得する。

## 2 ●●高校の生徒に育成したい資質・能力

自己有用感    自己肯定感    伝える力    主体性    まとめる力    チームワーク  
 学びに向かう力    ストレスに対応する力    前に踏み出す力    役立とうとする意識

4



例えば次のような生徒モデルについて、育成または発揮できていない資質・能力を考える。

- ・真面目で、何事にも真摯に取り組む。
- ・目立ちたがらない性格で、定期テスト等における得点や、その他の取組や実績をクラス内に知られることを極端に嫌がる。
- ・社交的ではないが、ごく少数の信頼できる友人とは良好な関係を築いている。
- ・AOまたは推薦入試で私立4年制大学を目指す力があるが、自己を過小評価しがちであり、高い目標設定をせず、現状維持に満足する傾向がある。
- ・担任からは特進コースを勧めたが、総合コースを選択した。
- ・特別な動機があるわけではないが、保育系の短期大学に進学することを志望している。

## 3 生徒の実態・・・現状では育成または発揮できていない資質・能力

自己肯定感    伝える力    主体性  
 前に踏み出す力    役立とうとする意識

## (5) 何から始める？「カリキュラム・マネジメント」（高等学校編）

【シート（高-5）】

カリマネ

### ア ねらいと特徴

所属校のカリキュラム・マネジメントに係る取組状況について、現状と課題を整理し、改善の手掛かりを得るためのチェックシートです。

**I** 自身や学校の「これまで」を見る【現実編】では、カリキュラム・マネジメントを推進する上で意識されるとよいポイントを、A～Eの5つの要素に分けて整理しています。自身及び所属校全体の実態をチェックします。

**II** 実践に向けて「これから」を見通す【展望編】では、カリキュラム・マネジメントの推進に向けて実現しているとよい取組を、A～Cの3つの要素に分けて整理しています。所属校の実現状況に応じて、必要度をチェックします。

### イ 使用方法

- ・ **I**では、A～Eの5つの要素からなる各項目について、「個人」と「所属校全体」とに分け、〔あてはまる／どちらかといえばあてはまる／どちらかといえばあてはまらない／あてはまらない／よく分からない〕のいずれかに○を付けます。

(1)

- A 新学習指導要領の理念
- B 目指す学校像と資質・能力の育成
- C 授業計画・実践
- D 授業分析
- E 学校評価・改善

- ・ **II**では、まず「目指す学校像（学校教育目標）」を記入します。(2)
- ・ A～Cの3つの要素からなる各項目について、必要度〔既に取り組んでいる／ぜひ取り組みたい／できれば取り組みたい／取り組みたいが難しい／取り組むことは不可能／よく分からない〕のいずれかに○を付けます。

- ・ 色の付いた項目は、土台として特に重要です。(3)

- A 育成すべき資質・能力の明確化・共有化
- B 全教員参加による授業研究（計画・実践・分析）
- C 資質・能力育成に向けた教科横断

- ・ **III**では、1～3の視点から振り返り、自校のカリキュラム・マネジメント推進に向けて改善の見通しをもちます。(4)

### ウ 留意点

- ・ **II**の各項目の順序性は緩やかなものです。所属校の実情や生徒の実態に応じて必要な取組を、往還しながららせんを描くように繰り返して実施することが、PDCAサイクルを回していくことにつながります。
- ・ 管理職や教務主任・研修主任等、校内でカリキュラム・マネジメントを推進する立場にある人だけでなく、全教職員による校内研修等でも使用できます。

何から始める？「カリキュラム・マネジメント」(高等学校編) 【アレンジして全校種使用可】

学校名 \_\_\_\_\_ 高等学校 \_\_\_\_\_

本シートは、所属校のカリキュラム・マネジメントに係る取組状況について、現状と課題を整理し、改善の手掛かりを得るために使用します。

1 自身や学校の「これまで」を見る【現実編】

次の表では、カリキュラム・マネジメントを推進する上で意識されるとよいポイントをA～Eの5つの要素に分けて整理しています。あなた自身及びあなたの所属校の先生方の実態をチェックしてください。

要素	項目	個人				所属校全体			
		① あてはまらない	② あてはまるが、 ほとんどではない	③ あてはまるが、 一部ではない	④ あてはまる	① あてはまらない	② あてはまるが、 ほとんどではない	③ あてはまるが、 一部ではない	④ あてはまる

A 新学習指導要領の理念  
① 次のその  
ア 社  
イ 育  
ウ 博  
エ 名

B 目指す学校像と資質・能力の育成  
② 目指す  
ア …  
イ …  
ウ …  
エ …  
成 …

C 授業計画・実践  
③ 授業を  
ア 単  
イ 博  
ウ 目  
エ 名  
オ 課  
④ 評定に  
把握す  
（観点  
など）  
⑤ 生徒の  
などし

D 授業分析  
⑥ 担当教  
がある  
⑦ 担当教  
いて助  
⑧ 授業実  
による  
⑨ 授業実  
による  
⑩ 授業実  
による  
⑪ ⑧～⑩

E 学校評価・改善  
⑫ 自校の  
理職や  
している  
⑬ 自校の  
かった  
⑭ 自校の  
かった

2 II 実践に向けて「これから」を見通す【展望編】

「目指す学校像」(学校教育目標)

次の表では、カリキュラム・マネジメントの推進に向けて実現しているとよい取組を、A～Cの3つの要素に分けて整理しています。各項目の順序性は緩やかなものです。所属校の実情や生徒の実態に応じて必要な取組を、往還しながらせんを描くように繰り返して実施することが、PDCAサイクルを回していくことにつながります。色の付いた項目は、土台として特に重要です。あなたの学校の現状状況に応じて、必要度をチェックしてください。

3

要素	項目	内容	方法の具体例等	必要度					
				取組むべき項目ではない	取組むべき項目ではない	取組むべき項目ではない	取組むべき項目ではない	取組むべき項目ではない	
A 育成すべき資質・能力の明確化・共有化	ア ○○高校の生徒に必要な学びを明確にする。	目指す学校像に基づき、自校の生徒に育成すべき資質・能力を全教員で共通理解する。	・SWOT分析 ※注1 ・思考ツールの活用						
	イ ○○高校の生徒に必要な学び実現のための周辺体制を整備する。	アのために、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源も活用しながら効果的に組み合わせる。	・外部の人的・物的資源の活用						
	ウ ○○高校の生徒に必要な学びを俯瞰する。	ア及びイを踏まえて、学校経営の全体像を視覚化する。	・グランドデザイン作成						
B 全教員参加による授業実践・分析	エ ○○高校の生徒に必要な学びを検証する。	ア及びイについて、前年度の成果と課題及びその改善策について分析する機会を設定する。	・CAから次のPDへ(PDCAサイクル) ・グランドデザイン改訂						
	ア 学びのデザインシートに基づいた授業構想	すべての教科で、授業設計診断の4項目を共通言語とした授業改善を進める。							
	イ 教科の枠を超えた校内授業検討会①	1教科または複数教科の授業について、授業者が作成した「学びのデザインシート」に基づき、実践前検討会を実施する。							
C 担当教科で育成できる資質・能力	ウ 教科の枠を超えた校内授業検討会②	事前に実施した1教科または複数教科の授業について、「学びのデザインシート」「授業実践振り返りシート」を活用しながら、生徒の学びの深まりを分析するための事後検討会を実施する。	・ストップモーション方式 ・発話記録分析 ・学習過程可視化 ・授業前後理解比較						
	エ 教科の枠を超えた校内授業検討会③	1教科または複数教科の授業を全教員が参観し、「学びのデザインシート」「授業実践振り返りシート」を活用しながら、生徒の学びの深まりを分析するための事後検討会を実施する。	・全員が授業参観できる体制づくりが必要						
	ア 担当教科で育成できる資質・能力①	目指す学校像に照らして、自校の生徒に育成すべき資質・能力を教科横断的な視点から検証する。	・「カリキュラム・マネジメント」ワークシート(総合教育センター)を使用 ・授業録画(総合的な学習の時間など)を視聴						
D 担当教科で育成できる資質・能力	イ 担当教科で育成できる資質・能力②	アを踏まえて、各教科の指導についての成果と課題を整理し、具体的な見通しを持つ機会を設ける。	・KJ法、ブレインストーミング等の手法を活用						
	ウ 担当教科で育成できる資質・能力③	アを踏まえて、年間指導計画の改善を図るために、全ての教科の単元配列を把握する。	・学年別の全教科単元配列表作成						
	エ 担当教科で育成できる資質・能力④	ア～ウと並行して、「生徒にどのような力が付いたのか」という学習の成果を分析的にとらえる学習評価の在り方を共通理解する。	・評価規程や評価方法、時期などの見直し ・ルーブリック作成						

※注1 SWOT分析 … 組織を「強み(Strength)」「弱み(Weakness)」「機会(Opportunity)」「脅威(Threat)」の4つの軸から評価する手法のこと。

4 III I・IIを踏まえて、次の視点から振り返る

- 1 全教員が同じ目標を共有し、協働する環境を作っていくために、あなたの学校で課題になっていることはどのようなことですか？
- 2 あなたなら、「主体的・対話的で深い学び」の実現と「カリキュラム・マネジメント」の関係を、どのように説明しますか？
- 3 あなたなら、カリキュラム・マネジメントのよさをどのように考え、あなたの学校の先生方にどのように伝えますか？

### 3 特別支援学校 研修シート

#### (1) アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計シート【シート（特-1）】

授業設計

##### ア ねらいと特徴

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、リーフレットの授業設計診断の4項目を意識して授業を設計するためのシートです。

1時間の授業や1単元の終了時の子どものあらわれを想定して、そのあらわれを引き出すための4項目に着目しながら授業を設計します。

##### イ 使用方法

- ・対象と教材のねらいを簡潔に記入し、実態を整理します。(1)
- ・子どもはどんなことを解決したいと思っているか記入します。また、授業開始時に想定される子どものあらわれを育成すべき資質・能力の三つの柱の視点で記入します。課題は、子どもにとって解決する必然性があり、人や物とのやりとりがあることで「解決したい課題や問い」となっているか検討しましょう。(2)
- ・子どもはどのような「学習の成果」を得るか、授業終了時に想定される子どものあらわれを育成すべき資質・能力の三つの柱の視点で記入します。知っていることやできることが増え、子どもが自分の成長を実感したり、次に知りたいことやできるようになりたいことを見つけたりできる展開になっているか検討しましょう。(3)
- ・課題を解決する上で必要な「考えるための材料」、想定される活動、教員の押さえを記入します。その材料は、複数の視点から考えることを促すか、「深い学び」につながるか検討しましょう。材料を記入する欄が3つありますが、すべてに記入する必要はありません。(4)
- ・「考えるための材料」を提供したとき、課題を解決するためにどのような「対話と思考」が起こりそうかを記入します。(5)
- ・授業終了時に想定される子どものあらわれが引き出せるか、子どもの思考に沿った深い学びにつながる展開となっているか、全体を見直します。

##### ウ 留意点

- ・1から5までを、見直しながら検討してください。
- ・子どもの実態に合わせて活用してください。



# アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計シート

## 1 対象（学校、学部、子どもの概略）

- ① 知的特別支援学校 中学部 木工班 のこぎりチーム 2年1人 3年1人(事例) 計2人  
 言葉でやりとりできる。  
 やることが分かると、自分から準備に取り組んだり規格に合わせて製品を作ったりする。  
 やることが分からなかったり製品が上手く作れなかったりすると、動きが止まったり大きな声を出したりする。

## 2 教材のねらい（単元名、単元のねらい、本時のねらいなど）

単元名： 道具や機械の使い方を覚えよう！（作業学習 全 18 時間(2時間×9回)）  
 単元のねらい： 手順表等を活用し、道具や機械を安全に使ったり正しく作業を進めたりすることができる。(知識及び技能)  
 規格に合う製品を作るために、注意するポイントを考えたり教員に相談したりすることができる。  
 (思考力・判断力・表現力等)  
 進んで道具の準備や片付けをしたり、評価を受けて頑張ろうとする気持ちを持ったりすることができる。  
 (主体的に学習に取り組む態度)  
 本時のねらい： ポイントを確認しながら製品を作ったり、規格に合っているか判断したりすることができる。  
 (思考力・判断力・表現力等)

## 3 授業の展開（本時： 11,12/18 時間 全体活動は 20/90 分、班別活動は 70/90 分）

		時間配分
②	解決したい課題や問い 授業開始時に想定される子どものあらわれ ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	どうやったらきれいな製品を作ることができるかな？  ・ 前は、手順表で確認しながら作業を進めることができたね。……① ・ でも、まっすぐ切れないことがあったよ。どうしてかな？ ……② ・ まっすぐ切って、きれいな製品を作りたいな。……③  導入 (10分)

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	展開 1 (30分)
目標を記入する作業日誌	報告のタイミングが明記された手順表	見本、検品のチェックリスト	
<b>想定される活動</b> ・ 今日は、まっすぐ切りたいな。もう一度、丁寧にやってみよう。 ・ この前は3個できたから、今日は4個作るぞ！	<b>想定される活動</b> ・ 今日も、手順表で工程を確認しながらやろう。 ・ できたぞ！先生に報告しよう。 ・ 丁寧にやったつもりだけど、まっすぐ切れないな。先生に相談しよう。	<b>想定される活動</b> ・ 見本と同じか、比べてみよう。 ・ これは○か×か、判断に迷うな。先生に相談しよう。	
<b>教員の押さえ</b> ・ 目標は具体的で、子どもが分かる表現になるように留意する。 ・ 達成可能であるかを、子どもと確認する。	<b>教員の押さえ</b> ・ 子どもが使いやすい手順表を準備する。 ・ 質問に対しては、直接答えを伝えず、子どもが考えるようヒントを与える。	<b>教員の押さえ</b> ・ きれいに作るためのポイントが視覚的に分かる見本を準備する。 ・ 規格に合っているものとそうでないものを分類し、報告させる。	

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）		展開 2 (20分)
・ ○○君は、6個もできたんだね。どうしたら、速く正確にできるの？ ・ これは規格に合っているか判断が難しいな。○○さん、どう思う？ ・ パーツができたぞ。次の工程を担当する友達に渡そう。		

③	<b>学習の成果</b> ・ 作業日誌を活用することで、目標が達成されたかの自己評価ができる。 ・ がんばったことや気付いたことを教員や友達に伝えたいと思う。 ・ 次回の作業もがんばりたいという気持ちになる。	まとめ (10分)
	<b>授業終了時に想定される子どものあらわれ</b> ①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	・ 自分の作業量や努力点を日誌に記入することができる。……① ・ 次回の作業でがんばりたいことを考えたり、教員に相談したりすることができる。……② ・ いつまでに、何枚作ればいいのかを知りたくなる。……③

### ア ねらいと特徴

実践後にリーフレットの授業設計診断の4項目が有効であったかを振り返るためのシートです。

子どものあらわれから成果や課題を整理することで、授業改善につなげます。

### イ 使用方法

- ・「解決したい課題や問い」を提示した場面について、子どものあらわれを記入します。課題についてどのような考えをもっていたか、どのように受け止めていたかが分かるあらわれを記入しましょう。表情や行動から子どもの考えが分かる写真やワークシート、作品などがあればシートに載せます。(①)
- ・「解決したい課題や問い」についての教員の評価を記入します。課題は、子どもが知りたい、できるようになりたいと思う課題であったか振り返りましょう。改善点があれば記入しておきます。(②)
- ・「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」についても同様に振り返ります。
- ・もう一度同じ授業を行うとしたらどこを改善するかという視点に立ち、実践を振り返ります。(③)

### ウ 留意点

- ・複数の教員で子どものあらわれを確認し、設計した授業によって子どもが深く学べそうか、また改善点があるとすればどこかを検討します。

「アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計シート」、「アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践記録シート」については、総合教育センターのWebサイトから授業実践例がダウンロードできます。

[http://www.center.shizuoka-c.ed.jp/index.php?page\\_id=226](http://www.center.shizuoka-c.ed.jp/index.php?page_id=226)



## アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践記録シート

①

解決したい課題や問い	
<p>作業の前後でポイントを確認</p>	<p>○解決したい課題を提示した場面について</p> <p>「もらった相手に喜んでもらうためには、きれいなコースターを作る必要がある」ことを班全体で共通理解した上で、のこぎりチームとしてどのように対応すべきかを、教員と一緒に考えたり、ポイントを提示したりした。</p> <p>★課題についての教員の評価 ②</p> <p>ポイントと製品の出来栄えの因果関係を、生徒に分かるように伝えることができた。作業の目的と内容が明確になり、意欲向上につながった。</p>

考えるための材料	
<p>検品の様子</p>	<p>○考えるための材料を活用しながら学習に取り組んだ場面について</p> <p>検品では、材料を検品ツールに合わせ、4隅が90度になっているかどうかの検品に自分から取り組み、規格に合う・合わないに応じて「○×？」の3種類に分別し、教員に報告することができた。</p> <p>★材料についての教員の評価</p> <p>検品ツールにその目的を表記したことで、意識が高まった。僅かなずれをどう評価するかが曖昧になってしまったため、評価基準やツールそのものを見直したいと感じた。</p>

対話と思考	
<p>補助具を固定する様子</p>	<p>○対話や思考した場面の様子について</p> <p>準備の場面では手順表を参考に試行錯誤し、自力で解決できないことは自分から教員に助けを求めることができた。生徒2人で1つの机を共有したことで、友だちの様子が次にやることの手がかりになったり、足りない道具に気付き自分から揃えたりすることにつながった。</p> <p>★対話や思考の場面についての教員の評価</p> <p>生徒同士で会話をすることが難しい場合でも、作業の場を共有することで、互いに教え合い、学び合う場を設定することができる。</p>

学習の成果	
<p>のこぎりチームの振り返り</p>	<p>○学習の成果を実感した場面の様子について</p> <p>準備から片付けまで自分から取り組めた。終礼の場面で作業量や製品の出来栄えを紹介した際に、「きれいに切れた！」と笑顔で友達に紹介する様子が見られた。友達の発表もよく聞いていた。</p> <p>★学習の成果について教員の評価</p> <p>「きれいなコースターを作るためのポイント」を作業日誌に明記し、毎回それらの視点から学習評価ができるようにさせていきたい。</p>

③

アクティブ・ラーニングの視点からの授業実践を振り返って(もう一度同じ授業を行うとしたらどこを改善するか)

仕事の出来栄えを正確に分かりやすく自己評価し、自分から発信することで達成感や製品理解の深まりにつながるという仮説に基づき実践した。そのような成果を確かに実感することができたが、生徒同士のつながりをもっと大切にしたり工夫したりすることで、自分の役割が明確になり、意欲を引き出すことにつながると感じた。製品作りに知識や技能を発揮する時間と、友達同士で考え、認め合い喜び合う時間をバランスよく設定したい。

平成 29 年度 研修成果物 (授業実践) より

### (3) カリキュラム・マネジメントワークシート

ワークシート1 資質・能力を育てるためのカリキュラム・マネジメント

【シート(特-3)】 **カリマネ**

ワークシート2 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

【シート(特-4)】 **カリマネ** **学習評価**

ワークシート3 教科横断的に取り組む資質・能力の育成

【シート(特-5)】 **カリマネ**

#### ア ねらいと特徴

ワークシート1は、学校教育目標を実現するために、「学習指導要領から教育内容を明確にする段階」と「指導計画を作成する段階」の2つの段階を確認し、課題を整理するためのシートです。

ワークシート2は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業検討会で授業を振り返る際に活用するためのシートです。学習過程可視化法に基づきます。

ワークシート3は、資質・能力を確実に育成するために、各領域・教科がどのように配置されるか計画したり、確認したりするためのシートです。

#### イ 使用方法

- ・ワークシート1は、改善が必要だと考える項目にチェックを入れ、課題を洗い出します。シートにはおおよその検討内容を記していますが、好循環を生み出すには、どこの組織と連携を図るか、どのようなPDCAサイクルを確立すればよいか具体的に検討します。
- ・ワークシート2は、実践後、授業の流れに沿って(横軸)子どもの学びがどの程度深まったか(縦軸)を検討します。

**手順1** 目標に関連する子どもの行動や発言などを記入した付せんを横軸に沿って貼りながら、子どものあらわれや変容を共有していきます。(1)

**手順2** 子どものあらわれや変容の原因を、授業設計診断の4項目に沿って分析します。その際、授業者が設計した「解決したい課題や問い」や、準備した「考えるための材料」などが、「主体的・対話的で深い学び」につながり、授業のどの場面で資質・能力が発揮されたかを可視化します。期待していた変容が認められない場合には、その原因や改善策について、検討するとよいでしょう。(2)

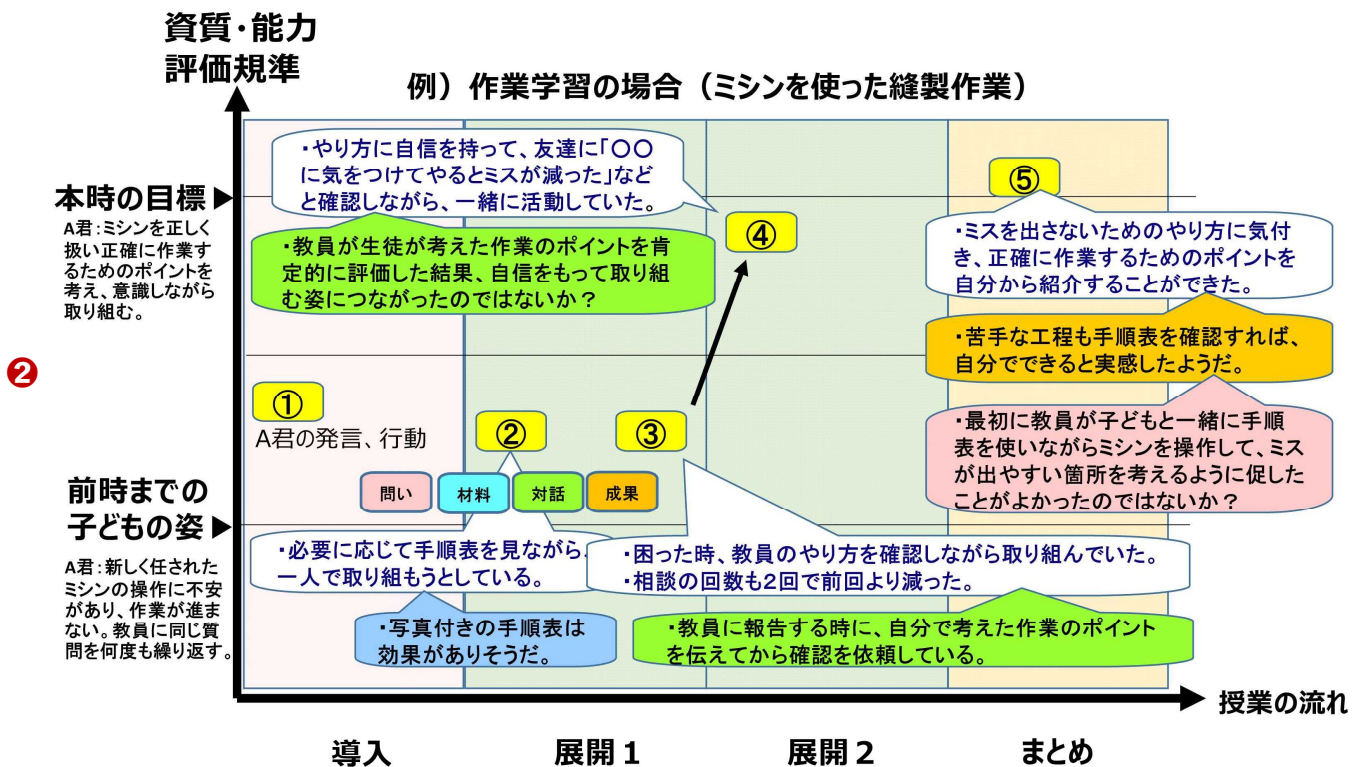
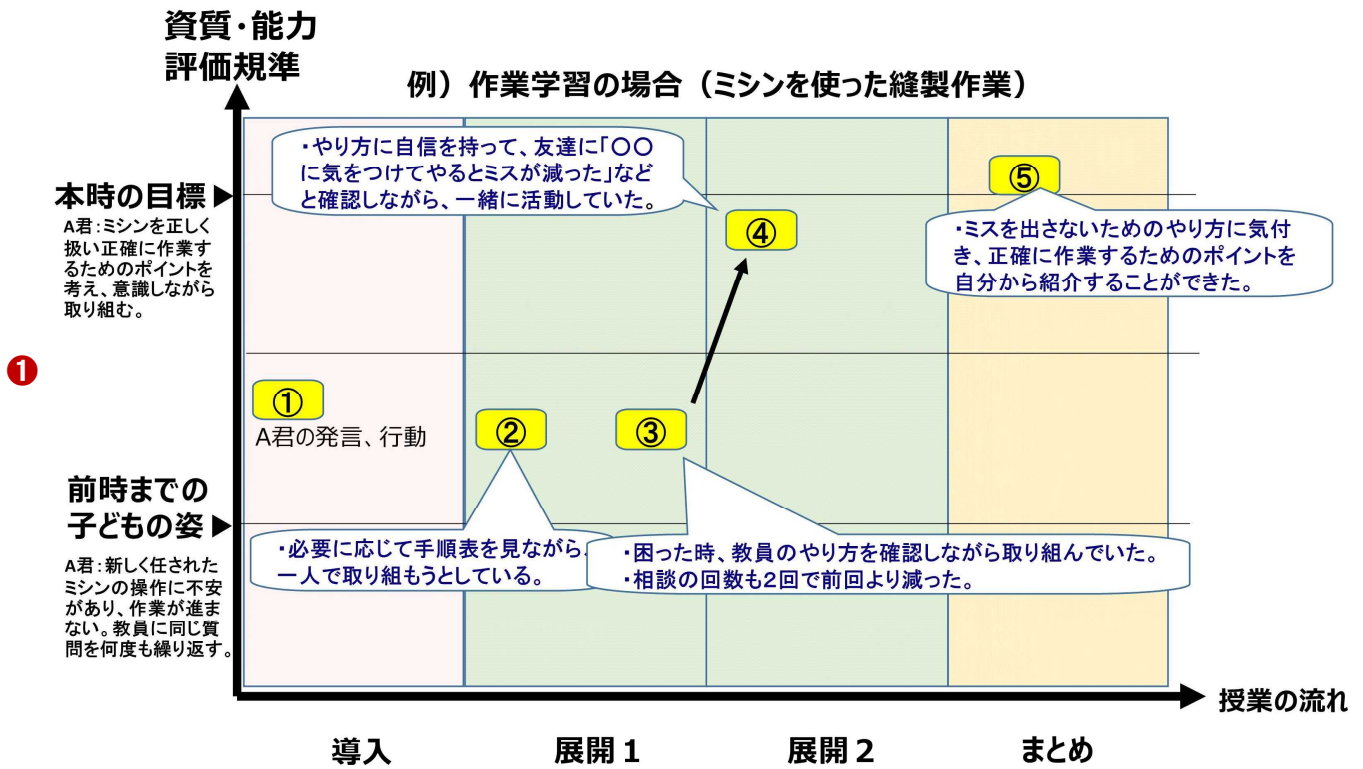
- ・ワークシート3は、実践する授業を中心に、他の領域や教科とのつながりを計画したり整理したりすることで、資質・能力を育成する教育資源を効果的に組み合わせ確認します。

#### ウ 留意点

- ・カリキュラム・マネジメントは、すべての教職員で取り組むことが大切です。異なる立場の教員が互いの意見の相違に気付き、課題を共有することから始め、目標の達成や改善に向けてPDCAサイクルを確立しながら進めていきましょう。



# ワークシート2「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善



# ワークシート3 教科横断的に取り組む資質・能力の育成

<p>知識及び技能： 社会参加のために活用できる知識や技能を育てる。</p>			
<p>思考力・判断力・表現力等： 自分のよさや課題に気付き、目標をもつことができる。</p>			
<p>主体的に学習に取り組む態度： 主体的に学ぼうとする意欲や態度を育てる。</p>			
育成すべき資質・能力			
教科・領域 (作業学習)	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力 主体的に学習に取り組む態度
教科・領域 (生活単元学習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニューを値段表と照合しながら、正確な会計業務を行う。</li> <li>・基本的な接客方法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喫茶サービスのより接客の仕方を考え、状況に応じて適切な対応を考え、判断する。</li> <li>・老人ホームの方々とふれあう地域交流の場面で、喫茶サービスで学んだことを生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接客のプロの働き方を進んで学び、お客さんに喜ばれる仕事をしようとする。</li> </ul>
教科・領域 (数学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計業務に必要な計算の仕方を学ぶ。</li> </ul>		
教科・領域			
ICTの活用			
地域の人的・物的 資源の活用 (地域のコーヒージャップ)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの接客方法との違いに気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コーヒージャップ」の店員から働き方を進んで学び、自分の作業に生かそうとする。</li> </ul>